

ぬまた 市議会だより

第80号

12月定例会

令和8年
2月1日



沼田市消防団出初式 (1月11日開催)

内容 12月定例会
行政調査報告 など



沼田市議会HP

12月 定例会

12月定例会は、12月2日に開会し、12月12日までの11日間、市当局からの報告、条例の改正、令和7年度補正予算、追加補正予算など計38件を審議しました。また、10人の議員が一般質問を行い、市当局と活発な議論を展開しました。

令和7年度 一般会計補正予算専決処分報告

令和7年度補正予算では、9月の突風と豪雨による被害への対応として、農林水産施設と土木施設の災害復旧費が専決処分として報告されました。農林水産施設は265か所で約1億7,870万円、土木施設は42か所で約9,210万円が計上され、早期復旧に向けた対応が進められています。



令和7年度 一般会計補正予算

国県支出金の確定や制度改正等に伴う増減及び緊急に措置し

市議会議員、特別職、職員の 期末手当支給割合を改定

人事院勧告で、期末手当の引き上げの見直しが勧告され、本市職員の期末手当についても国

に準じ、所要の改定を行いました。またこれに合わせ、市議会議員、特別職、会計年度任用職員の期末手当についても改定しました。

条例に反対（一部抜粋）

多くの市民は、1円でも安いものを探し、買い求めるといった状況を余儀なくされています。こうした時は、議員や市長などの特別職の期末手当を引き上げるのではなく、わずかな額であっても市民のくらし、営業を支える事業へとその財源を充てるべきです。

条例に賛成（一部抜粋）

人事院勧告は、公務員に対し、国内情勢、民間との整合性を総合的に勘案し一つの目安として公表しています。そのため、職員をはじめ、我々も受け入れることは妥当であると考えます。また、この考え方は市長や副市長、教育長の特別職についても同様です。

こども誰でも通園制度開始 に向けた条例制定

「こども誰でも通園制度」は、生後6か月から満3歳になる前までの子どもが、家庭の状況に関わらず気軽に保育園を利用できる新しい制度です。これまで「保育園は働いている家庭が使うもの」というイメージがありましたが、この制度では、仕事をしていなくても、子どもに集団での経験をさせたい時や、保護者の方がリフレッシュしたい時など、さまざまな目的で利用できます。利用できる時間は月10時間程度と短時間ですが、保育者との関わりやお友達との遊びを通して、子どもの成長に良い刺激が得られます。今回の、沼田市乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定は、制度に必要となる設備と運営における基準を定めるものです。



市政を問う!!

一般質問

熊対策について現状の把握と対応状況・
そして今後の対策強化に向けて

木内 修一



【Q】本市における熊の出没および被害の把握状況について伺います。

【A】出没件数や目撃情報の推移について増加傾向にあります。本年度においては、11月末日までに334件の目撃通報があり、10月だけでも216件ののぼり、それらの通報の大半が住宅地周辺への出没でした。被害状況は人身被害が4件、農産物においては、果樹を中心に被害が多数発生しています。本年度は11月末までに122頭が捕獲されています。

【Q】現行はどのような対応がなされているのか、その対応状況について伺います。

【A】通報を受けてから、沼田警察署と相互連携を図り、市教育委員会や市内公共施設、関係地域の区長等代表者と情報共有をするとともに、メール配信をはじめ、車両による広報活動での市民への周知に加えて、隣接町村等へ迅速な情報共有を図っています。

ます。また、「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」に基づき、鳥獣被害対策実施隊員と協議の上、捕獲檻の設置等、効果的な捕獲に努めています。事前対策としては、農業生産者や地域団体が、自主的に設置する侵入防止柵に対し補助制度を活用いただき、熊等の被害を未然に防ぐため、農産物残渣の処理方法について、市広報等で、注意喚起を行っています。

【Q】本市の熊に対する対策の強化について、どのように取組んでいくのか伺います。

【A】本市では、国や群馬県の補助事業を活用するとともに、群馬県鳥獣被害対策支援センター等との関係機関と連携し、対策強化に努めるほか、利根沼田地域においても、関係町村と様々な情報を共有し、広域連携が図れるよう研究していきたいと考えています。



姉妹都市提携60周年記念事業・公有財産

今成 敦子



【Q】沼田市と静岡県下田市は来年、姉妹都市提携60周年を迎えます。行政間だけでなく、民間や市民同士の交流の継続性と、まち・人・未来に残るものを意識した象徴的な記念事業の検討状況について伺います。

【A】現在、下田市と事業の内容について協議を進めています。両市は文化や社会、経済などの交流を通じて友好関係を育み、10年ごとの節目の年に相互訪問や記念植樹、交流会などを実施してきました。これまでの歩みをしっかりと継承し、未来を見据えた友好関係の発展につながる記念事業となるよう、協議を進めていきたいと考えています。

【Q】ふるさと納税を活用した熊対策費の確保について伺います。

【A】現在は検討していませんが、災害支援等を募る手段については、国・県の支援等を勘案し、必要に応じて検討していきたいと考えています。

【Q】沼田公園テニスコート跡地の

活用計画について伺います。

【A】「沼田城跡調査・保存整備事業の今後の進め方」により、諸課題が解決された後に検討を行います。暫定的な活用については、遺構を傷つけることなく、史跡としての価値や景観を損なわないように注意を払いながら、関係課と協議の上、検討していきたいと考えています。

【Q】東倉内町駐車場の貸付状況と課題について伺います。

【A】本年9月1日から北側半分をホテルルートインに、南側半分の29台を月極駐車場として貸付けており、現在の貸付台数は14台で、さらなる利用率の向上が必要であると認識しています。



1966年下田町と姉妹都市提携

一般質問

学校教育について

齋藤 智



Qぬまた未来創造学の取組の現状と今後について教育長に伺います。

A郷土について調べたことや地域の行事に参加した体験を子ども同士で共有したり、地域を支える方々からの学びを大切にしたりすることにより、郷土の良さを認識し、郷土を愛し、その発展に努めるようなひとづくりを目指して、学びを充実させていきます。引き続き、探究的な学びおよび教科横断的な学びを充実させるとともに、「コミュニティ・スクールを生かした地域との連携を更に強化していきたいと考えています。

Q学力向上のための取組の現状と今後について教育長に伺います。

A「2025学力向上対策」を掲げました。具体的には、学力向上の基盤となる学級集団づくりを大切にした上で、授業においては、答えが一つではない魅力的な問いを設定し、児童生徒同士

の対話と交流を深める活動を重視しています。また、思考力や非認知能力の育成、ICTの効果的な活用による全員参加型の学びの実現に向け、確かな学力の定着および向上に努めています。

Q子どもたちのより良い人間関係づくりの取組について教育長に伺います。

A学力向上の基盤となる学級集団づくりを指導の重点に掲げ、4月に開催した研修会では、学級経営の第一人者である大学教授を講師に迎え、全教職員で人間関係づくりの価値やポイントを学びました。また、「2025学力向上対策」の中でも、学級経営を重点項目に位置付けるとともに、対話と交流を重視した授業づくりを推進することで、人間関係づくりに対する教職員の意識が高まりつつあると認識しています。



安心して暮らせるまちづくり、教育環境の充実

井上 弘



Q地域の課題や困りごとを共助によるボランティアで解決していくことについてどのように考えるか伺います。

A誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、地域全体で協力し合い地域課題の解決に取り組んでいくことが必要と考えています。住民同士の交流やつながりを一層深めるとともに、支え合いの仕組みづくりに取り組んでいきたいと考えています。



Q先生方は忙しく、子どもたちのために自分の時間を削っている現実があります。教員の多忙化解消に向けてどう取組んでいるのか教育長に伺います。

A子どもたちに豊かな学びを届けるためには、教職員がゆとりをもって、自ら学び、子どもたち一人ひとりとしっかり向き合う時間を確保することが大切であると考えています。便りや通知などの配信、メールによる欠席

連絡など保護者とのやり取りのデジタル化、研修や会議等の精選など、負担感の軽減を実感できる取組を工夫しています。

Q子どもたちの読書活動を充実させていくために学校でどのような取組を進めていくのか教育長に伺います。

A子どもたちが本に親しみ、読書を楽しむ習慣を身に付けられるように、朝読書の時間を設けているほか、優良読書児童生徒の表彰、本を学級や廊下等に置き図書室に足を運ぶきっかけとするなど、子どもたちの読書意欲の向上を図っています。また、「家族読書」を推奨するなど家庭との連携や、新聞記事を基にした「よむyomワークシート」の活用など工夫した取組を進めています。



市政を問う!!

沼田市ゼロカーボンシティ宣言の達成について

小野塚 正樹



【Q】2050年カーボンニュートラルの実現に向け、地方自治体にも具体的な行動と成果が求められる段階に入りました。本市が宣言した沼田市ゼロカーボンシティ宣言の達成に向けた取組については、将来世代への責任を果たすための大きな目標であり、市民、産業、行政が一体となって進めていく必要があると考えます。宣言の達成に向けた成果について伺います。

【A】地域における環境負荷の低減を目指し、市民・事業所・市の連携・協働による再生可能エネルギーの導入および利用の促進、省エネルギー・省資源型ライフスタイルの定着、森林の整備、保全・森林資源の利用推進に取り組んでいます。

成果については、公共施設へ太陽光発電設備を設置し、再生可能エネルギー電力利用への転換を図ったほか、市民向けに再生可能エネルギーシステムの設置費用補助を実施するなど、目

標達成に向け着実に推進しています。

【Q】本市がJークレジットプロバイダーになると企業にクレジット売買や仲介ができるようになります、新たな財源確保に挑戦していくことができます。沼田市産Jークレジットの発行とプロバイダー化について伺います。

【A】市有林の適正管理を行うことで可能となる、Jークレジットの発行に向けて取組んでいるところですが、市としてプロバイダーとなることは検討していません。

まずは、民間のノウハウ等を借りながら推進していきたいと考えています。



Jークレジット制度

ミズノスポーツサービス(株)との連携

高柳 勝巳



【Q】学校における体育授業での連携の検討について教育長に伺います。

【A】本市では、水泳授業を民間に委託し、本年度は小中学校6校で実施しています。

また、専門性の高い外部指導者を体育授業に招いたり、がんや性感染症に関わる内容について学ぶ機会を設けたりする学校もあり、専門的な指導を受けて、正しい知識と技能を習得する上で効果を高めています。

民間企業との連携については、質や安全性の向上、教員の負担軽減などを鑑み、今後の取組を検討する上で参考にしていきたいと考えています。

【Q】学校部活動の地域移行での連携について教育長に伺います。

【A】令和5年度に策定した「沼田市立中学校部活動地域展開推進計画」においては、本年度末までに市内の全ての中学生が、多様なスポーツや文化芸術活動に親しめるよう、学校や地域の実情

に応じた持続可能な環境整備を目指してきており、部活動指導員を配置したり、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団、既存のスポーツ・文化芸術団体の協力を得たりすることにより、休日における学校部活動について、可能な種目等から段階的に地域展開しています。

民間企業との連携については、地域展開の一端を担う部活動指導員を対象に、ミズノスポーツサービス(株)に委託し、体の動かし方の基礎・基本を体験的に学ぶ研修会を実施していますが、学校部活動の地域展開における連携については、今後の取組の参考にしていきたいと考えています。



テラス沼田トレーニングプラザ

一般質問

デジタル社会への対応について

鈴木 誠



Q デジタル技術の進展に対する市の基本的な認識について伺います。

A デジタル技術は急速に進展しており、多方面でデジタル技術の活用が不可欠となっています。

Q 若者を中心としたデジタル活用機会の現状と課題について伺います。

A 本市の若者に対するデジタル活用機会の提供については、決して十分でなく、また、学びの場が少ないことも課題であると捉えています。

Q 群馬県の「tsukurun」事業に対する市の見解について伺います。

A 若年人材に特化したデジタルクリエイティブ人材育成拠点で、多岐にわたるデジタルスキルを学び、日進月歩の世界であるトレンドに触れることは、非常に効果的であると考えています。

Q 利根沼田地域の中心市である沼田市がどのような役割や方向性を見据えているのか伺います。

A 本市は、利根沼田地域定住自立圏の中心市として魅力ある地域づくりに取組んでいます。

デジタル分野における取組についても、連携して取組めるよう努めていきたいと考えています。

Q 若者の学びや挑戦の選択肢を地域内に広げる観点から、「tsukurun沼田」の設置検討について伺います。

A デジタルクリエイティブ人材育成拠点として県内各所に「tsukurun」や「tsukurunサテライト」が設置されていますが、残念ながら利根沼田地域には設置されていません。デジタルスキル獲得の意欲がある若者への学びの機会拡大は大変有益であると考えています。で、「tsukurun」の本市設置の可能性についても研究していきたいと考えています。



新年度予算編成 有害鳥獣対策 不登校対策

大東 宣之



Q 市政の課題をどのように考え、新年度予算編成でどのような対応を検討しているのか伺います。

A 人口減少対策、少子化対策等、課題は多岐にわたりますが、地域とともに「こころ豊かに暮らし、しあわせを実感できるまちづくり」を実現することが大きな課題と考えています。

市民生活の安定と向上に資する施策の充実を図り、取組んでいます。

Q 新年度予算で市民要望の実現、市民の満足度・安心感を得るための施策はどのように検討されるのか伺います。

A 令和8年度予算編成においては、長期的な展望を持ちながらも、足下に目を向け、細やかな施策を着実に進めることにより、市民生活の満足度や安心感の向上が図られることを目指し、施策を検討していきたいと考えています。

Q 鳥獣との住み分け、人材育成、防護、追い払い、捕獲など今後の対策はどのように進めるのか伺います。

A これまでの対策に加え、群馬県へ要望し河川の刈り払いなどによる住み分け、熊対策に関する学習会を開催し、引き続き関係機関と連携を図りながら、より効果的な対策を研究していきたいと考えています。

Q 不登校生徒へ今後どのような対策を進めるのか教育長に伺います。

A 「誰一人取り残されない！不登校対策『Nプロジェクト』」を起ち上げ、初期対応の強化、魅力的な学校・学級・授業づくり、不登校児童生徒を支援する教職員や保護者を対象とする支援者支援の充実、官民が連携した地域ぐるみの支援体制の構築などに努めたいと考えています。



市政を問う!!

子どもたちが安心して過ごす屋内公園

星野 妙子



Q 9月に発生した突風と記録的な大雨の被害状況と被害箇所の今後の対応について伺います。

A 9月2日の突風災害は、倒木29件、側溝の溝蓋浮上など8件、10日の豪雨災害は、土砂流出26件、舗装洗掘24件、排水不良など19件を確認し、危険回避のため市の直営作業による応急措置を迅速に実施し、42力所の災害復旧工事については、11月末までに31力所の発注を終え、早期復旧に努めています。

Q 今回の災害事例を分析し、今後の防災にどのように役立てていくのか伺います。

A 突風と豪雨による被害は、屋根の損壊や倒木、道路への冠水や土砂崩れ、床上・床下浸水、田畑への雨水流入、農作物被害等多岐にわたりました。災害事例を分析し、庁内・関係機関と課題を共有し災害への備えを強化します。

Q 小中学生の防災教育は、どのように実施されているのか教育

長に伺います。

A 直面する災害に対し適切な意思決定や行動ができることが大切と認識し、家庭科や総合的な学習の時間に台風や大雪、熊等による危険予知や回避能力を育てる学習活動に取り組み、防災教育の充実を図っていききたいと考えています。

Q 子ども議会において、子どもたちの笑顔と健康を守る屋内公園の質問がありました。利根屋内プールを全天候型施設として活用することについて伺います。

A 新たな屋内公園の整備は、長期的な視点で検討を行う旨の答弁をしました。利根屋内プールは、施設の老朽化や維持管理コストが多額なため使用を中止しており、民間事業者等による活用を調査し、実現の可能性を探っていききたいと考えています。



人口減少対策と沼田の魅力について

齋藤 育子



Q 未来のライフデザイン事業について伺います。

A 小中学生および高校生を対象に、赤ちゃんとのふれあい体験講座を実施し、命の大切さや、将来の出産・子育てを身近に考える機会を提供しています。また、妊娠・出産・子育てについての喜びや体験談を聞くことで、親に対する感謝の気持ちや、自分の将来をイメージする機会となっています。

Q 結婚新生活支援補助金について伺います。

A 所得の低い若い世代の、結婚に伴う新生活を経済的に支援することにより、地域における少子化対策を強化することを目的として、新婚世帯の住宅取得費用や住宅賃借費用、引っ越し費用等の一部を補助するものです。

Q めまたハッピープロジェクトについて伺います。

A 運営委員会が中心となり、出会い・交流イベントや結婚応援セミナーを企画し、開催しています。

Q 命を守り育てる教育の取組に

ついて教育長に伺います。

A 本市においては、独自施策「児童生徒の命を守り、育てる教育」を通して、生命尊重を重点内容項目に設定し、道徳教育の充実を図っています。

Q 町中探検について教育長に伺います。

A 小学校低学年の生活科において、身近な生活圏である地域に出て、親しみや愛着をもち、地域の方々と適切に接することや安全に生活することを学んでいます。

Q たんばら・森林の学校を広げることについて、教育長に伺います。

A 市内の全小学4年生を対象とし、参加対象者の拡大は検討していませんが、本市の未来を担う子どもたちが森林文化都市の一員であるとの誇りを醸成していくものと認識し、今後も継続的に実施していけるよう努めます。



行政調査

報告

沼田市議会では毎年、委員会ごとに先進自治体等の行政調査や管内調査を実施しています。

今回は、民生福祉常任委員会の調査の概要を掲載します。

民生福祉常任委員会

令和7年10月6日・7日、愛媛県今治市、岡山県岡山市を調査しました。

今治市では、21世紀のごみ処理施設、今治市クリーンセンターバリクリーンの特徴と建設に至った経過等について調査。岡山市では、株式会社による障がい者との共生社会づくりの取組について調査しました。

今治市クリーンセンターバリクリーン

当施設は「地域を守り市民に親しまれる施設」として、東日本大震災の教訓を踏まえ、施設の地震対策はもちろんのこと、地域全体として災害時の防災拠点となる機能を有するとともに、320人分の備蓄品（水・食料・生活用品等）を7日間分備蓄し、非常用発電機や断水時にも水の供給が可能な地下水揚水

設備、IH調理設備なども設置。

また、「環境啓発・体験型学習及び情報発信ができる施設」として、イベントなどの開催のほか、研修室を貸し出しており、利用率は90%を超えています。なお、貸し出しは、地元住民の利用が優先されています。

岡山市(株)ありがとうファーム

ありがとうファームでは、「生き生きと堂々と、人生を生きる」という企業理念のもと、「知ることは、障がいを無くす」のスローガンを合い言葉にアートとサービスマネジメントを2本柱として、障害者約70名が活動しています。

一般就労を希望した場合には、支援計画を作成、トレーニングを行い、勤務時間も長くして施設外支援でインターンも実施していました。また、対象となる企業に就労者の特性を知ってもらうための情報も提供していました。

所感

利根沼田新ごみ処理施設整備において、施設整備の留意すべき点や地元貢献など、施設としてのコンセプトが重要であり、地元との共存が必要不可欠であると学びました。また、企業理念とスローガン、障がい者自らが「自分の給料は自分で稼ぐ」という目標に向かって笑顔で自信を持って活動されている光景に、障がいのあるなしに関わらず共に生きられる共生社会はここから始まると感じました。



岡山市(株)ありがとうファーム
同社で経営する「ありが亭」を視察

次回定例会の日程

次回定例会は、2月24日（火）からの予定です。
インターネット中継も行っています。



編集後記

厳冬の冷たい風が山々を包み、街に冬の気配が一段と深まってまいりました。市民の皆さまにおかれましては、日々の暮らしの中で様々な課題や期待を抱きながらお過ごしのことと存じます。本日の議会だよりでは、定例会での審議内容や各議員の一般質問を通じて、沼田市が直面する課題と、その解決に向けた議論の一端をお伝えしました。議会は市民の声を市政に届ける場であり、開かれた議論こそが信頼につながります。今後もしっかりと、身近に感じていただける紙面づくりに努めてまいりますので、引き続きご意見をお寄せください。

寒さ厳しい折、健康管理に留意され、地域行事や身近な話題にも目を向けていただければ幸いです。議会だよりが、市民と議会をつなぐ架け橋となることを願っております。新年度に向け、実りある議論を重ねてまいります。

編集委員 山宮 敏夫